

氏名： 神田 由築 (KANDA Yutsuki)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
学位： 博士(文学)(1998、東京大学大学院人文社会系研究科)  
職名： 准教授  
専門分野： 日本近世史  
E-mail： kanda.yutsuki@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

芸能／興行／近世／歴史／文化  
performing arts / entrepreneurship / early modern / history / culture

◆主要業績

総数(1)件

- ・「小豆島農村歌舞伎の映像を制作して」『総合展示リニューアル(近世)に向けてⅢ ひとつもののながれ・村からみえる「近代」』(国立歴史民俗博物館)

◆研究内容 / Research Pursuits

2007年度の活動は、大きく3つに分けられる。第一に、2005年度以来取り組んでいる農村歌舞伎の研究を著書に取りまとめるべく、その準備と考察を行った。とくに、これまであつかったことのない明治期の新聞小説について調査する必要性が生じ、研究の対象時代を大幅に広げることとなった。年度内に著書を刊行することはできなかったが、次年度の課題として引き続き取り組む予定である。第二に、国立歴史民俗博物館の常設展示リニューアルの最終年度にあたって、調査および展示用のキャプションの作成をおこなった。また、10月には2008年3月のリニューアルオープンに向けてのフォーラム(第61回歴博フォーラム「ひとつもののながれ・村からみえる「近代」」において、2004年度から着手した香川県小豆島中山歌舞伎の調査の報告と、その過程で制作した映像記録の成果と課題について報告した。第三に、これまでの研究活動をもとに、文京学院大学において一般市民向けの講座で講義を行い、研究成果の普及に努めた。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では以下の6つの授業を担当した。「日本近世史料演習Ⅰ」「同Ⅱ」では『群馬県史』をテキストとして、日本近世史を研究するのに必要な基礎的な史料読解に関する演習を行った。「日本史研究法」では『シリーズ身分的周縁と近世社会』をテキストに、日本史を研究していくために必要な、文献や資料の読み方について授業を行った。「日本近世近代社会経済史」では、あらゆるモノが「商品化」される近世という時代の特徴を探るために、男色を取り上げた。「日本文化史概論」では小風教員と分担で前半を担当し、日本史のなかにおける「都市」をテーマに、17世紀以降の歴史について通観した。「歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ」では比較歴史学講座の各教員が提供する、各地の遺物（展示物を含む）や遺跡見学のフィールドワーク形式の授業の取りまとめを行った。大学院では、院生が研究成果を発表する「日本文化史演習」「日本文化史特論」と、歌舞伎・文楽などの知識を養うための演習「伝統芸能文化論演習」の3つの授業を担当した。

## ◆研究計画

農村歌舞伎に関する著書を刊行することと、2006年度に試論的に取り組んだ歌舞伎・浄瑠璃の戯曲構造から当時の歴史的・社会的環境を明らかにするという、歴史学と文学を融合する研究をさらに進めることができると考えている。

共同研究の可能性としては、文学との共同研究や、祭礼における社会のありかたなどを通して民俗学との共同研究、あるいは芸能をテーマにした音楽学・服飾史などとの共同研究が考えられる。

## ◆メッセージ

とにかく「実物」に接することを大切にしてください。「実物」の古文書に触れ、「実物」の文化的遺物を観て、歴史や文化について考えること。もちろん、なかには長い年月のあいだに姿を変えたものもあるでしょうから、そこから直接、歴史的事実が読みとれるとはかぎりません。けれども、「実物」は私たちに訴える何か不思議な力を秘めています。それから、古文書を読んだりモノを観たりするだけでなく、その古文書やモノが作成あるいは伝承された「現場」に行ってみること。やはり「現場」に立つことで、机の上では見えないものが見えたり、そこでしか得られない貴重な情報を入手することができます。まずは自分の目で確かめ、考える。そこから、現代社会を生き抜くに必要な批判能力が生まれると思います。